

平成25年度 神戸市立本多聞中学校 学校評価書

＜中期目標・単年度目標（経営計画）＞

・中期目標は、昨年度から全面実施となった学習指導要領の目標に応じた教育、特に「言語活動の充実」や「人間力の育成」に主眼をおいた取組を展開する。また、校区内の戸建て住宅地の大規模開発に伴い生徒や保護者の実態や要望がこれまでとは大きく変化し多様化する中で、柔軟かつ的確に対応できる学校組織を作り上げる。単年度目標は、それら中期目標の達成のために、各調査、アンケートを基にした学校評価活動を中心に効率的なPDCAサイクルを確立し、より機能的な学校組織の再編に取り組む。特にそのベースとなる授業改善や感動できる行事の実践は、生徒や保護者との信頼関係構築に不可欠であり、重点を置いて取り組む。

評価基準 A：十分達成されている B：相当程度達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

重点的な目標・取組	取組状況	成果・課題	評価	来年度へ向けての改善方策	外部評価	
分かる授業・楽しい学校	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を目指し、授業改善に取り組む。「授業がわかりやすい」と答える割合を各学年とも10%アップする。 授業形態、教材を工夫し、生徒個々に応じた学習を実践する。 家庭学習に積極的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月、12月と生徒による授業評価アンケートを実施し、全教員が自分の授業を具体的に振り返り改善に取り組んだ。 数英を中心に少人数授業、複数指導体制を組み、きめ細かな指導を展開した。特に3年生の英語で補助員を活用した習熟度別授業を実施した。 「みんなの学習クラブ」を活用し、生徒の主体的な学習を促進し、個に応じた教材作成に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価によって、教員の目標も明確になり授業に対する意識改革や改善に向けた具体的な取組は進んだ。 3年生の習熟度別授業は、生徒の実態やニーズを反映し、生徒だけでなく保護者からも好評であった。 「みんなの学習クラブ」は大きな課題であった個別の教育支援に関して大きなツールとなり、特に学習会等での自主的な取組は大きな成果であった。 上記のように今年度、次々に新たな取組を導入し教員もその対応に努力したが、より成果を生むためにはさらなる改善と工夫が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価活動によって、全体的に授業改善は進んでいるが、まだまだ不十分な教科もある。すべての教科で「分かる授業」を展開し、肯定的な支持を90%以上に高める。 教員が授業を見直す機会を本年度以上に設定し、互いに協力することで全体のレベルを上げる。 「みんなの学習クラブ」の活用をさらに推進し、生徒それぞれの個別の課題に対応することで全体の学力向上を図る。 教員の人的な配置にもよるが、可能な限り習熟度別授業が実施できるようにする。特に3年生ではその効果的な実施に向けて努力する。 「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒の割合を全体で90%にする。このために授業の改善や、行事の工夫を進め、生徒の充実感を高める。 小中連携に関しては、これまでの取組を単に継承するのではなく検証することにも重点を置き、さらに効果的な取組を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開や授業アンケートを積極的に実施し、生徒や保護者の視点に立ち、授業改善に向けて努力している。来年度もこの姿勢を大切にしてほしい。 ネット配信教材を導入し、個々の生徒の能力に応じた課題の提供に取り組んだことはすばらしい。これまで授業を理解できなかった生徒に対して、少しでも学力アップやリカバリーにつながるのではないかと、生徒にとって興味関心が高まるような授業を期待する。子どもたちの話を聞いても先生によって授業力に差がありすぎるように感じる。授業が楽しいことや先生との信頼関係があつてこそ、分かる授業につながる。 本年度、英語で実施した習熟度別授業が好評であったので、ぜひ来年度はさらに充実させてほしい。特に3年生においては、可能であれば他の教科も増やせないだろうか。 生徒との懇談から、一部の生徒の勝手な行動とそれに毅然と対応できない教員への不満が多く聞かれた。これについては、学校全体の問題として最優先で対応してほしい。 「学校が楽しい」と答える生徒の割合が約86%あり、学校生活の充実ぶりがうかがえるが、生徒との懇談からは、もっと生徒を理解してほしいという意見も聞かれた。生徒との信頼関係を大切にしてほしい。 いじめに関する取組については、教員が早期対応を心がけ、しっかりと取り組んでいる様子が理解できる。これからも内容を強化し、100%なしを目指してほしい。 ボランティア活動については、年々盛んになり、地域行事によっては中学生が柱になっているものもある。さらに充実させるために関係者ももっとアイディアを出すべきである。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと実感できる工夫を行う。「学校が楽しい」と答える生徒の割合を5%アップする 規範意識の向上や人権教育に重点を置き、生活習慣の定着、豊かな心の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の取り組みに生徒の主体的活動を取り入れ生徒が達成感を得られるように図った。 小学校6年生との交流活動を実施し、思いやり心の育成と中1ギャップの解消を目指した。 各関係機関の協力を得ながら健全育成に関する様々な行事を実施し、規範意識の向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」と肯定的に答えた生徒の割合は全体で86%であった。これを90%にするために生活面、学習面ともにさらに充実させる必要がある。 学期に1回程度実施した健全育成の行事には熱心に取り組む、感想もしっかりとしたものを残せた。 小中連携の各取組はほぼ定着しており、スムーズな接続に大きな成果をあげている。ただ、マイナーチェンジさせていくことも必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒の割合を全体で90%にする。このために授業の改善や、行事の工夫を進め、生徒の充実感を高める。 小中連携に関しては、これまでの取組を単に継承するのではなく検証することにも重点を置き、さらに効果的な取組を目指す。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 思いやり心を育て、いじめのない学校づくりのための取組を展開する。「いじめ」を否定する割合を100%に近づける 教員と生徒との信頼関係を重視し、楽しい学校づくりに取り組む。 地域活動へのボランティア参加を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なカウンセリングやアンケートによって生徒の要望や実態を把握し信頼関係構築に努めた。 アンケート結果に基づく研修や外部講師を招いた研修を実施し、技術的な側面でも生徒との関係構築に取り組んだ。 生徒の活動が地域とのニーズが合致しやすいように工夫、連携し、より達成感を得ることができるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ」をした、されたに関してそれぞれ否定した割合が同じ97%に達した。日頃のいじめに関する様々な取組の成果である。 肯定した3%の生徒へのケアに全力を挙げるとともに目標である100%に向けてさらなる取組の強化が必要である。 地域からのボランティア活動に対する要望も強くなり、必要とされている活動が定着しつつある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ」をした、されたに関しては、否定する生徒の割合100%を目指す。そのための指導や啓発活動は徹底して取り組む。 学期に1回程度実施しているカウンセリングを継続するとともにその質の向上に努力する。 引き続き地域のボランティア活動に積極的に取り組み、必要とされる活動を展開する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> より多くの保護者の興味関心を喚起し来校を促す。 学校公開、学校評価アンケート等を通じて、保護者の意見を幅広く収集する。 P T A活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対しHPやメールなど従来とは違った形で情報伝達を行い、興味関心を高めた。 学校評価アンケートの回収率を高めたり、学校公開への来校者（保護者）を増やす 運営委員会を中心に、活動内容等の見直しを行い活動を実質的なものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絆メールの活用が12月末で約130件。前年度はほとんど活用できなかったのが飛躍的に増えた。特に行事案内や部活動の連絡では大きな成果をあげた。 学校公開で来校する保護者数を増やすために取り組んだ工夫は効果が大きく来年度以降も継続したい。 活性化のための検討の結果、組織の大幅な改編に取り組むことになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> メールによる連絡の活用範囲をさらに広げて保護者の利便性を高め、引き続き家庭連絡の中心として位置づける。 来年度も、保護者が来校しやすいような工夫をする。 P T A活動の活性化のために、組織を含めて大幅な見直しに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> P T Aボランティアや携帯等に関する本多聞スタンダードの制定など、新たな取組が実施され、活性化につながった。 学校公開時に保護者の来校を促すための工夫がされたり、保護者アンケートを実施するなど、保護者の意見を取り入れようとする姿勢がよかった。 P T A活動の抱える慢性的な課題については、大幅な改革が必要であり、来年度の取組を楽しみにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの充実を図り、情報の積極的な発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの内容を見直し、更新回数を大幅に増やした。その結果、閲覧者数も大幅に増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新回数を増やした結果、閲覧数も大きく伸び、情報伝達の重要なツールとして確立している。 学校HPの運営は役割を分担する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 更新頻度をさらに増やすとともに、HPに関わる教員や体制を強化し、幅広い情報を提供できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新回数を増やし、保護者向けメールの活用を推進するなど情報発信については、大きく改善された。 	
<ul style="list-style-type: none"> 機能的なPDCAサイクルの定着を図り、学校改善に結びつける。 保護者や生徒の実態や要望に即した学校運営を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価（生徒、保護者）、学校評価等の各アンケートを基に実践内容について、客観的な評価を受けられるサイクル（システム）を構築した。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの評価活動から1歩踏み込み、教員が責任を認識したりや当事者意識を持てるような活動を重視した。 生徒や保護者からの意見を幅広く聞き、課題と指摘されたことに先送りをせず、年度内に対応したことで、改善がより効果的であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も学校の考えや取組等が、生徒や保護者にわかりやすく伝わるように工夫する。 評価活動は今年度同様、責任の明確化や年度内の改善に重点を置いて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者の意見をしっかりと聞こうとする姿勢は評価できる。そこで出てきた改善点について、どう対応するかが課題である。 評議員と生徒会執行部との懇談会は学校を理解する上でとても有意義であった。 	

＜自己評価の総括＞

・学習面では、ネット配信教材のシステムを導入したり、授業評価による授業改善に取り組むなど、学力の向上を目指した新たな取組が実践できたことは評価できる。ただ、特定の学級・教科で授業がうまく成立しないことが起こり、年度途中で時間割や担当者の変更、支援教員の配置などで対応した。すべての教員の指導力をさらに向上させなければならぬ。

・生活面では、全体的には落ち着いた状態を維持できた。ただ、上記のような授業が成立しない原因を引き起こしている生徒については丁寧な支援を含むしっかりとした指導が必要である。

・HPやメールの取組を大幅に改善したことで、多くの必要な情報をタイムリーに提供できた。これによって、家庭との連携や信頼関係構築に大きな成果をもたらした。今後も情報の収集伝達体制をさらに充実させ学校全体の活性化に結びつけた。

＜外部評価の総括＞

・ネット配信教材システムの導入や授業評価アンケートの実施などは、学校が真剣に授業改善に取り組む、生徒の学力向上を目指している現れである。また学校HPや保護者メールの取組を大幅に改善し、有益な情報を大量に提供したことは、保護者や家庭との連携を深め、信頼関係構築に大きな成果をもたらした。このような新たな取組を導入するには、多くの労力が必要とするが、校長先生をはじめ先生方の熱心な姿勢によって実現しており、この点は大いに評価できる。しかし、その一方で特定の学級・教科で授業がうまく成立しないことや一部の生徒に対する指導で不満が高まったことについては学校全体の問題として改善を急ぐべきである。先生方には、日頃から生徒との信頼関係を大切に、毅然とした態度で指導してほしい。